

医学博士のメデイカル・コラム 病気が教えてくれるもの

第38回 病気が治る理由

“包丁で指を切った”、“転んで膝を擦りむいた”、“虫に刺されて皮膚が腫れた”…。その時は痛みや不快を感じるであろうが、これがいつまでも続くとは思わないだろう。時間がたてば必ず修復することを経験的に知っているからだ。潜在意識が疑いなく治ることを信じている場合は、その通りに現象化し、予定通りの結果が訪れる。

けれども、ある病気を医師に告げられて、ご丁寧にもそれが悪化する“確率”や、最悪の病状がどうなるかを説明され、更に確認するように自分でもインターネットで検索する。その時、心の奥底に入るのは絶望や恐怖、不安などの暗い想念だろう。医師に告げられた“確率”は、実はこの暗い想念に支配された人たちが、その結果どうなったかの“確率”なのだ。

多くの人は、自分が病気になる理由は持っている。けれども、病気が治る理由を

持っている人は少ない。ストレスや過労、不摂生も病気になる理由であろう。或いは人生が思い通りに進行していない時、人はその原因を他の人や環境のせいにし、あるいは病気を創ることで正当化しようとする。自分は病気だから人生が思い通りになっていないのだと。

人生を、病気に支配されずに生きたいものだ。然らば今、自分が健康でなければならぬ理由をこそ見つけよう。病気にかかっている場合ではない理由を見つけよう。病気が治らなければならぬ理由を見出そう。暗い想念に支配されず、自分自身こそが身体の支配者であることを思い出そう。それこそが、病気を寄せ付けず、病気を克服するためのヒントなのだ。

医学博士 木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。
米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。



医療法人

きむら内科クリニック TEL 044(981)6617

麻生区五力田2-14-6

きむら内科クリニック 麻生区 検索